

# ミニミニマインズ ~博物館だより~

平成22年 9月15日 第185号

平成22年度 前期企画展

## 市民向け講演会 & 子供科学教室



講演をする 松葉谷 治 先生

9月4日(土) 13:30から前期企画展市民向け講演会を当館3階講堂にて開催いたしました。講師は秋田大学名誉教授の松葉谷 治先生、演題は「玉川温泉と北投石」でした。当日は立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。(講演会の内容について博物館実習生が書いたレポートを裏面に載せましたのでご覧ください。)

市民向け講演会終了後、高校生以下の生徒・児童を対象に子供科学教室「博物館内外いろいろな場所の放射線を測ってみよう!」を開催しました。松葉谷先生と千田恵吾学芸員の指導で、簡易放射線測定器《はかるくん》を使ってさまざまな岩石や試薬の放射線量を測定する体験を参加者にしてもらいました。

**前期企画展は9月26日(日)まで**開催いたしております。北投石について理解を深める絶好の機会です。まだご覧になっていない方はどうぞご家族やご友人の皆様とお誘い合わせの上お越しください。



測定器の説明をする千田学芸員(左端)

## 第3回市民開放講座

8月25日(水) 当館3階講堂にて第3回市民開放講座を開催いたしました。講師に秋田大学名誉教授の高島 勲先生を迎え、「インドネシア気象庁の地震・津波研究の紹介」という演題で講演をしていただきました。一般のお客様のほかにもインドネシアからの留学生の姿も見られました。

次回の市民開放講座の開催につきましては詳細が決まり次第お知らせいたします。



市民開放講座の講師 高島 勲 先生

## 子ども見学デー

8月20日(金)、秋田大学子ども見学デーが開催され、各体験コースを終えた子ども達と保護者の方々約180名が来館されました。巨大なアンモナイトの化石やきれいな鉱物標本に見とれている姿が多く見受けられましたが、今年は特にカンカン石(讃岐石)の石琴の人気が高かったようです。

展示説明をしてくださったサイエンスボランティアの皆さん、ありがとうございました。



~裏面もご覧下さい~

※下記は、前期企画展市民向け講演会を聴講した博物館実習生のレポートです。  
(紙面の都合上、2名分のみ掲載いたします。)

### 「前期企画展講演会に参加して」

秋田大学 教育文化学部  
国際言語文化課程 3年 継田 愛里

前期企画展講演会「玉川温泉と北投石」が開催され、当日は多くの市民の方々が集まった。強い酸性の湯として知られる玉川温泉は、硫酸だけでなく塩酸も含む点で一般的には非常に珍しい泉質とされている。しかし松葉谷先生のお話では、そのような温泉は湯沢の川原毛温泉など他の地域にも見られるため特に珍しいものではなく、より注目すべきは湧水量の多さであるということだった。しかもその水は、地下のどのような所を流れてきたのかなど明らかになっていないことが多いという。このことから自然を科学によって解明することの難しさが感じられた。

また、北投石については放射線の話が中心となった。放射線というと、浴びると人体にとって非常に有害だという印象があるが、実は人体も放射線を発し、自然のうちにも放射線にさらされているということを知り、人間の生活のすぐ近くに存在するものなのだと考えさせられた。北投石もまた放射性物質であるラジウムを含んでおり、その放射量は自然放射量より大きいものの長期間にわたって身につけていない限り人体に特別な悪影響を及ぼすというものではないということだったが、しかしやはり完全には無害ではないという点で「魅惑の石」のように思われた。現在では天然記念物として扱われており、そうした希少価値の高さもまた、北投石が人々の関心を集める一因になっているのかもしれないと感じた。

今回の講演会では少し難しい内容であったにもかかわらず、市民の方々の積極的に学ぼうとする姿勢が見て取れ、私もそのような意識の高さを見習わなければならないと思った。講演会に参加したことは、私にとって様々な面で得るものが大きかったと感じている。

### 「市民向け講演会『玉川温泉と北投石』に参加して」

秋田大学 教育文化学部  
地域科学課程 3年 伊藤 茜

「玉川温泉と北投石」という講演会のタイトルを聞き、安直に玉川温泉の人体におよぼす効用や世界中で秋田と台湾のみにしか無いとされる北投石の珍しさや魅力についてお話しくださるものだと思ったが、松葉谷治名誉教授は「北投石は日本では秋田の玉川温泉にのみ存在するとされるがそれは誤りである」という意外な事実からお話くださった。

玉川温泉や大噴の特徴、北投石から得られる情報など大変興味深く拝聴した。特に、北投石の放射能の話がたいへんおもしろかった。専用の機器を使っての測定により、様々な放射線の強さについて知ることができた。

全体にわたって難しい話が多く、理解が難しい場面もあったが、松葉谷教授の弁舌が巧みで最後まで飽きずに楽しませていただいた。今後の講演会にも積極的に参加したいと思う。

